

10月2日(土)・大会2日目 11:00~12:20 (C会場:1201) (80分)

●セッション【14】

「データサイエンスの現状と研究」

* 立本博文(筑波大学ビジネスサイエンス系教授)
佐藤忠彦氏(筑波大学ビジネスサイエンス系教授)
前田由紀子(サントリー酒類株式会社)
原寛和(本田技研工業株式会社)
山本将也(株式会社リクルート)

* セッション・リーダー

[概要]

本セッションは、『組織科学』のCFP特集「データサイエンス」(2022年3月発行)が発展したものである。データの大規模な蓄積やAIの利用により、多くの企業(伝統的業態であっても)にとって、従来活動とは異なる取組が必要となっている。また、学術研究者にとっても、新しい研究機会や産学連携活動が盛り上がっている。現在、企業で進んでいるDS/DXの取組みや、学術的観点からみたDS/DXの意義について報告と討論を行う。

- 各登壇者からの現状報告(各10分程度)
- 登壇者による討論(30分程度)

[参加者へのメッセージ]

好奇心強い方や、とくに若手研究者(young at heartの方)の参加を期待します。①-⑤に関心をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

- ① DS(データサイエンス)ってよく聞くけど、どんなものなんだろう?
- ② DX(デジタルトランスフォーメーション)ってよく聞くけど、具体的に企業は何をやっているの?
- ③ DS/DXが広まると、企業競争力や企業成長の源泉は変わるの?
- ④ いわゆるAI企業ではない企業(従来事業をメインとする企業)でも、DS/DXで何か変わるこ

とがあるの？

⑤ こういう変化をうけて、研究者としてはどういう研究機会があるの？

(参考)

『組織科学』CFP 特集「データサイエンス」(55 巻 3 号)

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/soshikikagaku/55/3/_contents/-char/ja

『企業成長を実現するデジタル投資(先行版)』。興味のある方に自由に配布していただいて結構です。書籍ページ <https://note.com/ttmthf/n/n452d3a3da2b4>